

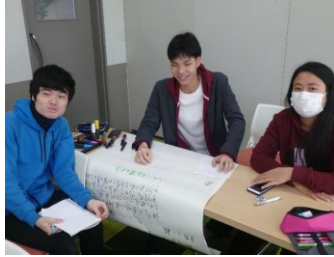
教員名

村上友章

企画名

初年次クラス(K05)によるI-1グランプリへの参加

商品開発型
企業



プレゼン資料準備中の学生



中間プレゼンテーション大会

企画・活動概要

本企画は、神戸学生イノベーターズ・グランプリ(I-1グランプリ)に、初年次教育クラス「自己発見とキャリア開発B」(K05)の学生(35名)が参加し、約3か月にわたって商品開発に挑戦したものである。

今回のI-1グランプリは、本学学生をはじめ、他大学・高校の学生・生徒約200人が参加し、『神戸プリン』をもっと地元・神戸に愛される商品にするには?』というテーマで商品開発を競った。これに対して、K05クラスでは、指導教員がまず、35名を8チーム(1チーム、約4人)に分け、各チームのリーダーを中心に、大会にエントリーした。したがって、基本的には、I-1グランプリ事務局との連絡は各チームリーダーが行うことになった。各チームは、他の出場チームと同じく、株式会社トーラク社員と本学審査員を前にして、2回にわたってプレゼンテーションに挑んだ。さらに、K05クラスは「自己発見とキャリア開発B」のカリキュラムの中で運営されるため、りゅうか祭の教室展示においては、商品開発の途中経過をまとめたポスター発表とプレゼンも行った。各チームとも、商品開発もプレゼンも初めての経験ばかりであり、加えて、指導教員もマーケティングの専門家ではないため、当初は手探り続き、悪戦苦闘した。それでも、どのチームもユニークなアイデアを絞り出せたと思う。

結果としては、K05クラスには決勝戦進出を果たしたチームはなかった。だが、全8チームは最終プレゼン大会まで脱落することなく、最後までグランプリに挑むことが出来た。そこで得られた経験は、今後の大学生活にとって貴重な財産となったと思われる。

経緯・背景・目的

初年次教育クラス「自己発見とキャリア開発A」(前期)では、本学が標榜する「夢の種プロジェクト」を具現化すべく、1年生から将来の目標を描いてもらうように、商業施設でのフィールドワークや社会人の講話など様々なプログラムを提供している。後期開講の「自己発見とキャリア開発B」もその延長線上にあるが、その内容は基本的には個々の担当教員に委ねられている。

そこでK05クラスでは、前期で学んだコミュニケーション力等を実習し、さらには、よりリアルに「夢の種」を思い描くべく、I-1グランプリへの出場を決めた。つまり、本企画の目的は、チーム・ビルディングが試され、なおかつ、企業人と直接、対峙するI-1グランプリを通じて、初年次教育の教育成果を確かなものとするのであった。



自己発見とキャリア開発Aの様子

取り組む課題



神戸プリン
(〔株〕トーラクHPより)

今年のI-1グランプリの課題は、『神戸プリン』をもっと地元・神戸に愛される商品にするには?』というテーマの下、魅力ある商品開発を行うことであった。したがって、参加者にはマーケティングミックスや顧客目線が求められると同時に、個々の能力を最大限に引き出すチーム力が試された。そこでK05クラスでは、日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』(筑摩書房)を参考にして、「目標設定」・「率先垂範」・「同僚支援」を意識したチーム・ビルディングを行うことを課題とした。

本学(学生)の役割

I-1グランプリにおける学生の役割は、グランプリに出場し、企業から出された課題に対する答えをプレゼンすることにある。したがって、大会運営そのものは本学事務局を中心に進められるため、比較的、学生が参加しやすい形態の社会共創活動であると言えるだろう。とはいえ、大会テーマは、参加企業にとっては死活的な課題であるため、プレゼンに対する審査員の視線は厳しい。学生・生徒は、これに応え得る水準のプレゼンが求められる。なお、K05クラスは他の「自己キャリアB」クラスと足並みを揃える必要があるため、授業時間外の作業は、担当教員による指導は控えられ、各チームの自主性に任せられた。



学生に鋭い質問を浴びせる審査員
(大学HPより)

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力



りゅうか祭でプレゼンする学生

【活動結果】

りゅうか祭における教室展示を行い、I-1グランプリによる公式な中間プレゼン大会、最終プレゼン大会に出場した。惜しくも決勝戦進出は果たせなかった。

【活動成果】

見える結果は出せなかったが、最後までグランプリを戦い抜くことができたことで、個々の学生が得られた教育的効果は少なくなかった様に思われる。それは、今後の大学での学びや就職活動に活かされるであろう。

【学生が成長した点】

チーム内の学生同士のコミュニケーションの難しさ、他の出場チームとの比較、そして、審査委員から浴びせられる鋭いコメントにより、大学生としての自覚が深まったように思う。

【学生が身につけた能力】

社会人を説得するために求められる能力ープレゼンテーション能力、論理的思考力等の必要性を痛感し、そのワンステップとなるような能力は身につけたように思う。



プレゼン資料準備中の学生

指導教員および関係者の紹介

【参加学生】「自己発見とキャリア開発B」(K05クラス)35名

【指導教員】村上友章(経済学部)

【協力企業・団体】株式会社トーラク
流通科学大学



「自己発見とキャリア開発」K05クラス